



《 巻 頭 言 》

私たちは確実に成長したはず

福島県小学校長会北会津支会副会長 鈴木 基之
(会津若松市立城北小学校)

はじめに、今年度末で退職されます校長先生方、長い間大変お疲れ様でございました。みな様のご指導、実践を生かし、子どもたちのため、教職員のために北会津小学校長会の益々の発展に尽くしてまいります。みな様のこれまでのご活躍、ご労苦に改めて敬意を表しますとともに、無事のご退職心よりお祝い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症がこんなに続き、ワクチンについても、4回も5回も打つようになるとは、全く予想もつきませんでした。令和4年度も、前年度と同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止と学校教育活動の正常化との両方を、常ににらみながらの経営でした。児童だけでなく教員の感染、あるいは濃厚接触による出勤見合わせなどにより、職員室から人がいなくなり、校長までもが学級に入っていく。多くの学校でそのような状況にあったことと思います。

このウイルス蔓延で、私たちは一体何を学んだのでしょうか。ウイルスの正体がよく分からない。治す薬もない。だれもが未経験のこと。正しい答えなんか無い。子どもも保護者も、そして私たち教職員も不安まみれ。しかし、そのような中で私たち校長は、『子どもの学びを止めない』を合い言葉に、現状を嘆き悲しむのではなく、行政等に対する愚痴を言い合うのでもなく、関係する人間で知恵を出し合って学校を運営してきました。学校行事を含め、教育活動の一つ一つにどのような教育的意義、価値があるのかを考え直し、そのときどきの状況に応じて、最も重要であるものを残し、それ以外を簡素化するなどして乗り越えてきました。当初は受け身的な状態だったかもしれませんが、『校長会』のありがたみを痛感しつつ、いつしか、主体として能動的に新型コロナウイルスと学校教育活動を考えるようになりました。校長のこの姿勢は、きっと教職員、保護者、子どもに届いたものと思います。そしてこの先、どんな災難に襲われるか分かりませんが、どのような困難な局面にあっても、きっと乗り越えていくことができる自信も生まれたように思います。この数年間の経験は、学校経営に必ず生きるものと思いますし、生かさなければなりません。

最後に、令和5年度は8月1日、2日東山温泉のホテルを会場に福島県小学校長会研究協議会が開催されます。北会津支会は教育課程の領域「知性・創造性」の分科会で研究を発表することになっています。担当される校長先生方を支会全体でバックアップしていかなければなりません。また、運営面において本支会は、「会場・接待」の係を担当します。会場を二つに分けての開催ですので、配慮、工夫すべき事項がたくさんあると思いますが、遺漏のないように声をかけ合っていきましょう。何が立ちはだかるか分かりません。みんなで見恵を出し合っていい大会にしたいものです。



《 提 言 》

体重 1.6 kg 減！！ ～校長の働き方改革～

前福島県小学校長会北会津支会副会長 佐藤 寅記
(前会津若松市立行仁小学校)

「えっ！？ 1.6 kg も減った！？」

今年度、喜多方市立小学校に再任用教員として任用され、教務主任として、4年生以上の理科と3年生の書写を分科担任しています。24年ぶりの授業に向け、教材研究や予備実験、略案作りをし、汗だくになって授業を進めてきました。「先生、次の理科、何やるんですか。」「理科が好きになりました。」「先生、遊ぼう。」などの声を聞くと、教員としてのやりがいを感じてとても楽しく勤務できました。そして3ヶ月後、健康診断を受けたとき、前年度検診時の体重より1.6 kgも減っていたことに衝撃を受けました。仕事量や生徒指導上のストレスは、学級担任よりはるかに少ないはずなのに…。授業は、心身共に過酷な作業なんだと改めて実感した次第です。

県教委は、先生方の心身の健康保持^①と子どもと向き合う時間^②及び自己研鑽の時間^③の確保を目的として、時間外勤務時間の削減を目標に掲げています。過日、アクションプランII実践モニタリング校の実践報告がなされましたが、小学校3校でみると、成果の6割(6/10)は、マンパワー(SSS、ICT支援員、専科教員、市町村雇用の講師等)によるものでした。働き方改革の目標に、「時間外勤務、月45時間以内」とか「ノー残業デーの実施」を掲げていますが、私は、そのことに大きな違和感を持っていました。時間外勤務時間が減ったところで、先に挙げた^②と^③の目的は達成されないからです。業務の適正化は、まさに、子どもと向き合う時間と教材研究の時間を、勤務時間内にどうやって創り出すかと考えていました。

管理職から教諭として11ヶ月勤務し、今、先生という仕事の多忙さ過酷さを実感しています。また、先生方の望む働き方改革は何かを明確にできました。校長としての勤務経験や自分の実践も含めて、校長が行うべき働き方改革を3点挙げてみます。

1 マンパワーを入れる

勤務時間内に、子どもと向き合う時間や教材研究の時間を増やすための実効ある取組みは、マンパワーを入れることです。

○ 地域・保護者の学習支援と安全支援

校外学習に、子ども達を見守る安全支援員に同行してもらいました。担任は、「そこに行っちゃダメ。」でなく、「いいところに気づいたね。」等の言葉かけが増えたと話してくれました。

○ マル付けボランティア

退職された先生に学校に来てもらい、約1時間、宿題等のマル付けをお願いしました。休み時間に、子どもと遊んだり会話したりする等、子どもと向き合う時間ができたと喜んでくれました。

2 日課表を工夫する

「職員室でお茶する時間も放課後の時間もない。」と先生方は、嘆いていませんか。日課表を工夫し、月曜と水曜の2回は1時間50分、金曜は1時間25分の時間を創り出すことができます。

3 本務に専念できる環境を確保する

○ クレーム対応は、毅然と！

クレームを聞くことは第一に大切です。しかし、そのことに終始し、先生方の不利益となってしまっただけではいけません。教委やスクールロイヤー等と連携し、反論や暴言を恐れず毅然と対処しましょう。

○ 他団体等の業務を担わせない

P T Aや学校運営協議会等の業務や会議等に、遠慮や同情から参加等を促してはいけません。しかし校長は、自ら諸団体と積極的にかかわりを持ち、セーフティネットに高めていくことが大切です。

北会津支会の校長先生方には、いろいろと相談させていただいたり助言いただいたりして、楽しく勤務させていただき感謝いたします。しかし、心残りが一つあります。市教研のことで恐縮ですが、補助金にかかる業務を押し返せなかったことです。この実現と、校舎施設・セットは、遅く帰る先生が行うようにし、校長の右腕となる教頭の働き方改革が進むことを願っています。

ご転出校長先生からの メッセージ

「校長としての礎」

前会津若松市立湊小学校長 樋口 喜敬

現在喜多方市立塩川小学校に勤務しております。2年間会津若松市立湊小学校にお世話になり、北会並びに会津若松市校長会の皆様には大変お世話になりました。

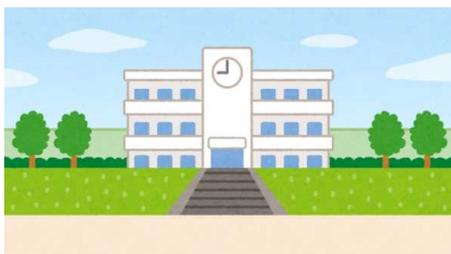
湊小学校へは自宅から約50分間の通勤で、それほど遠いとは感じていませんでしたが、冬の風の強い日は、ホワイトアウトになり、先が全然見えずに、命の危険を感じることも年に数回ありました。

湊地区は、地域の皆様に学校が支えられ充実した活動ができていました。また、体育館に暖房、プールも水を温める装置があり、校舎施設も充実しており、凍てつくような寒い日も校舎の中に入ってしまえばなんでもないような環境でした。

塩川小学校は、縦貫道の入り口等の近くに住宅が増え、子どももここ数年増えています。現在は400名程度になっています。校舎や体育館、校庭などが昔の狭いままなので、子ども達みんなが譲り合い我慢しながら使っています。

しかしその狭い環境でも子ども達は協力し、先生方は使いやすいように工夫をしていて、その中で子ども達は成長し、先輩から後輩へと優しい気持ち引き継がれています。そして、しっかりと学ぶことができます。

北会校長会でご指導いただき、学んだことは校長としての基本として、判断するときの礎となっております。



ご転出校長先生からの メッセージ

「お世話になりました」

前猪苗代町立吾妻小学校 原田 知幸

新任校長として令和元年度より三年間、北会津で勤務させていただきました。初めての会津地区勤務で、初めての校長会に参加した時、先輩方の温かで和やかな雰囲気、張り詰めていた緊張が解けていったことを今でも鮮明に覚えています。班研究、コロナ対応、町内行事…様々な面で御意見や御指導をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

今年度より地元県南西白河地区に戻り、泉崎第一小学校で勤務しております。



校長室に入ってまず目にとまったのは歴代校長の顔写真の数々です。明治三十一年、第四代校長を始め、四十名の顔写真が掲額されています。

明治、大正、昭和、平成、令和とそれぞれの時代でこの学校を支え、引き継いで来られた大先輩方に見つめられています。大先輩方の様々な思いや声が届いてきそうです。(初めは少し怖かったのですが、今はたいぶ慣れました。)学校全体で目指している「あいさつ・返事・ルール」の遵守・感謝・友愛 これらをブレずに取り組んでいくことは、大先輩方も納得してくれていると思っています。



最後になりますが、北会津小学校長会の先生方のますますの御健勝と御活躍を御祈念申し上げます。

【1月中旬 朝のジョギング】

転入校長所感

「特色ある教育活動を」

会津若松市立一箕小学校 半谷 成満

本校における「俳句」への取り組みは、昭和 40 年代に遡り、50 年を超える歴史と伝統がある。教育活動への導入の経緯は定かではないが、過去には数々の全国レベルの小中学生俳句大会で「日本一」を受賞する等輝かしい歴史がある。現在では、俳句に関する大会等が年々減少しているが、応募できるものには積極的に応募するようにしている。

本校では「俳句」を各学年とも学期ごとに国語科の教育課程に位置付け、季節や学校行事等を題材にして各児童が俳句を作りそれを各教室に掲示し保護者等にも紹介している。また、縦割り班活動で活動する「秋に親しむ会」においても各自俳句を作り、その班の中でよいと思われる作品を代表の俳句として提出し、校内の「俳句大会」において審査し、俳句大賞等様々な賞を与えて賞賛している。さらに、各児童が年間に作った俳句の中で児童自身が優れた俳句を 2 句選び、毎年発行している校内俳句集に掲載することになっている。

私の長男が通っていたある小学校でも俳句を教育活動に取り入れていた。始めは、面倒だなと思っていた私も、提出回数を重ねるごとに、その良さに徐々に気付いていった。ある時は長男と一緒に風呂の中で考える機会があり、いつの間にかコミュニケーションの一つのツールになっていると感じた。もちろん、自分の思いを十七文字という限定された言葉の中に込めるという過程は国語力育成にはとても重要なことだと考える。私は校長としてこれからも「俳句」への取り組みを推進し、多くの児童に国語力が身に付くようにさせていきたい。

新任校長抱負

「さらに、地域とともにある学校へ」

会津若松市立湊小学校 齋藤 園子

北会津支会の校長先生方には折に触れてご助言をいただき、お陰様で日々の学校経営の職務を遂行することができました。改めて御礼申し上げます。

コロナ禍 3 年目を迎えて、「学びを止めない教育活動の工夫」の舵取りが問われ続けた 1 年でした。行事や大きな活動の度に、「昨年度よりも一歩前進」を目標に教職員と最善策を検討し、地域学校協働本部、学校運営協議会、区長会等諸機関に支えていただき、保護者の理解・協力を得ながら推進することができました。学校に寄せる熱い思いと惜しみない協力に「地域とともにある学校」を実感した 1 年でもありました。

本校は、令和 6 年度を目標に湊中学校との一貫校として義務教育学校開設に向けて準備が進んでいます。小中学校の日課表を同じにしたり、7 年間の総合的な学習の時間のテーマ・内容にしたり等教育課程編成に着手しました。たたら製鉄、炭焼き、カーボンニュートラル etc.湊の歴史と未来を考える学習リソースがたくさんあります。

今後も、「汝、何の為に其処に在り也」と自問し続け、厳しくも豊かな自然環境に恵まれた、ここ湊だけにあるもの、湊だけでしか学べないことを児童、保護者、地域、教職員と共に改めて探りながら、創意に富んだ「義務教育学校教育課程」の礎づくりに努めていきます。そして、さらに、地域とともにある学校の構築を目指していきたいと思えます。



新任校長抱負

「元気をおすそ分けしたい」

猪苗代町立吾妻小学校 安藤 靖

令和4年度は、私にとって校長としてのスタートの年でした。初めて臨んだ第1学期始業式では、こんな話をしました。

『新しいスタートを切るとき、人は、目標を決めて前に進んでいきます。みなさん、今年目標はもう決めましたか。しっかり考えてください。考えて、考えて、自分の目標をもつことで、大きく成長することができます。』こう話した私自身が、考えて、考えて立てた目標は「吾妻小学校の元気を保護者・地域に届けること」でした。

吾妻・安達太良・磐梯山など豊かな自然に恵まれ、野口英世博士、中ノ沢温泉、軽便鉄道、スキーなど特色ある地域の歴史や文化にも恵まれた吾妻小学校です。飛び立つ白鳥の姿をした美しい校舎など、吾妻小のよさをあげればきりがありません。その中でも一番のよさは「目標に向かって一生懸命に頑張る子どもたちの姿、その中で生まれる満足の笑顔、思いやりの心が自然に現れる挨拶や返事…あづまっ子の元気」です。これらを一つでも多く保護者や地域の方々におすそ分けしたいという目標をもって、一年間を過ごしてきました。

目標達成にはまだまだ至りませんが、子どもたち・職員・保護者や地域の3者でつくる「チームあづま」で、これからも吾妻小学校の元気をどんどんおすそ分けしていけるよう努力していきます。



アイデア実践

「課題に向き合って」

会津若松市立行仁小学校 篠崎 俊樹

前任校は、校舎の老朽化が進んでおり、施設、設備の保全に、ある意味、たいへんやりがいのある学校でした。在任中、南校舎耐震、エアコン設置、体育館屋根葺き替え、プール改修と大工事が続きました。また、用務員の方と一緒に、遊具や下足箱のペンキ塗り、児童用荷物かけフックのビニルチューブ付け、校庭整地、不要物廃棄等、ペンキや汚れが付いてもかまわない服装が必需品でした。下足箱等、各所で出物があれば市役所のトラックを借りていただきました。中古品とはいえ、元々の物品よりはかなりよい程度でした。本校旧校舎からも、教師用机、本棚、カーテン、カーテンレール等、様々な物品をいただきました。

さて、本校では、ついに新校庭ができました。久しぶりの校庭なので、体育主任が中心になって教職員の共通理解を図り、安全に校庭を使えるよう、始業2日目に校庭で全校集会を開き、使い初めをしました。5月には新校庭で初の運動会もできました。今年度は、会津若松市小学校体育大会の事務局を務めることになりましたが、陸上競技場改修工事のため、1学期中(夏季休業中)に陸上大会と水泳大会を実施しました。コロナ禍で3年ぶりの競技大会となったために、コロナ対策を考えながらの計画・運営がとても大変でした。陸協・水協の皆様には、元年以上にお世話になりました。大会が終了し、再び校内を見渡すと、新しい校舎ゆえの課題がまた見つかりました。懸案のスキー用具置場、机や備品の脚に付ける傷防止部品等々。役職定年まであと1年、本校校訓「徳を以て仁を行う」を胸に、一つ一つ誠実に取り組んでいきます。

アイデア実践

「地域ボランティアとの連携を探って」

会津若松市立門田小学校 古川 徹

本校の特色として、地域学校協働本部事業と連携し、多くの地域ボランティアの皆さんにご協力いただいていることがあげられます。この事業も3年目となり、連携のあり方も柔軟になり、学校とボランティアの皆さんとのコミュニケーションも円滑になってきました。今年度は、教育課程に位置づけたものもあり、また、定期的に学年からの希望を集約し、コーディネーターと募集の仕方や日程を打ち合わせています。

新型コロナウイルスの感染第8波の時には多くの学級で学級閉鎖を余儀なくされ、また、一定期間出席できない児童も多く、その学習のケアが大きな課題となりました。学年や担任による授業の工夫や個別対応を行いました。上学年においては地域ボランティアの皆さんにも学習ボランティアとしてご協力いただき、学習を進めました。実施するにあたっては、学習の必要な単元や内容を精査し、学年の実態に応じて、内容や習熟度ごとに、児童の希望も聞きながら、コース別学習を複数回にわたり実施しました。児童にとっては、個別に質問をしたり教えてもらったりすることで、学習へのモチベーションが向上し、理解度も高まりました。3年目となったことで、児童と地域の方との関わりが自然になり、児童とも面識ができていることから、抵抗なくコミュニケーションができていました。

地域の皆さんへの感謝に堪えません。



アイデア実践

「子ども科学相談」

猪苗代町立緑小学校 武藤 盛男

本校は、今年度よりキャリア教育推進モデル校の指定を受け「キャリア教育」につながる様々な取組を進めています。

その一環として保護者を含む地域の方の提案で昨年6月より科学相談ボックスを校内に設置しました。子どもたちが身近な疑問に思ったことを、気軽に専門の先生に相談でき、更に新たな疑問も膨らんできています。これらはキャリア教育の課題対応能力の育成にもつながります。

質問の一端をご紹介します。

Q なんで「ウチダザリガニ」を駆除しないといけないのですか？

答えてくださったのは、「いなわしろカワセミ水族館」などの専門の先生方です。

A 元々、日本にはいなかった生き物で、「ウチダザリガニ」が侵入してきたことで、水草や貝がへってしまい、そこでくらす魚やエビなどがくらすことが難しくなってしまいます。そうすると、魚を食べる鳥も困ってしまいます。

他にも「なぜいろいろな色の食べ物があるのですか？」など答えに迷う質問に明確に答えていただきました。

学校の応援団はいろいろなところにあります。学びを学校の中だけに閉じず、地域と連携した取組に大いに期待しています。



教育随想

「JAZZ を学ぶ」

会津若松市立城南小学校 大塚 進一

高校時代、マイルス・デイビスのレコードを買いあさった。JAZZ に憧れ、いつかは演奏してみたいと思っていた。その夢の実現と退職後の趣味の充実のために、ここ何年かギター教室で JAZZ を学んでいる。2週間に1度の授業。久しぶりに継続的に何かを学ぶ身となり考えたこと。

1 とにかくほめられるとうれしい

この年齢になっても、ほめられるとうれしい。今のフレーズいいね。指の動きスムーズだね。どんどんほめて！という感じになる。楽しい。ほめるは最大の武器。

2 今日やることが分かる

何をやればいいのか。目標やステップが明確だと安心して授業を受けられる。今何をやってるの。何のためにやってるの。分からないと不安になる。やる気が出ない。腑に落ちると俄然張り切る。

3 言っていることが分からない

専門的な理論になるとよく分からない。何を言っているの。聞くタイミングを逃すと置いてきぼり。う～ん、分からない。

4 家庭学習と授業がつながる

次、この曲のここをやるよ。宿題が出る。家ではそこを徹底的に練習をする。次の授業で、今日はこの曲やろうと違う曲が課題となる。う～ん、やれない。やる気が出ない。せっかくやってきたのに。なぜ。

5 発表は緊張する

1対1でも発表は緊張する。指が震える。ましてや大勢の前ではなおさら。助けて。でもやりきる達成感は大きい。そのために努力をする。うまくなりたい。がんばる。

子どもたちも授業を受け、様々なことを考えるのだろう。学ぶ立場の気持ちを久しぶりに味わいながら、そんなことを考えた。

教育随想

「川南 ESD で探究」

会津若松市立川南小学校 酒井 央

川南 ESD（彼岸獅子継承活動、緑の少年団活動、障がい者施設交流）での探究学習に可能性を見出した1年でした。

夏休み明け、1年生がサツマイモ畑に行ってみると、背丈以上の雑草にビックリ。手でむしったりはさみで切ったりしてみましたが無理。どうしたらいい！協力を求めて絵手紙協力依頼作戦を実行しました。

収穫したサツマイモでケーキを作りたい2年生。作り方は何とかわかった。でも包丁や火が怖い。どうしよう！6年生とのコラボ家庭科調理実習につながりました。

学校の木を数えたら350本。タブレットでスマート植物図鑑を駆使して45種類あることも判明。木の高さも知りたい。今では立派なドローン操縦士になった3年生。

西軍に包囲された鶴ヶ城への彼岸獅子による入城作戦を劇にして幼保園で発表した4年生。また10箇所の商店や公共施設へ彼岸獅子PRポスターを掲示しました。

北会津の米を追跡し、北会津では米関連施設での聞き取りと見学、七日町では商店や通行人の方に飛び込みインタビュー。北会津米を愛し行動する姿にJAの方から感謝された5年生。

佐渡の小学校とのオンライン学習に取り組んだ6年生。川南 ESD の取組と成果を「伝えたい！知ってもらいたい！」との思いで身に付けたスキルを駆使したプレゼンは見事でした。

探究学習に「枠なし、区切りなし、終わりなし」。教科や教室、学年の壁を越え、解決したら新たな課題が見つかり、子どもたちの探究心は3月になろうとしている今も続いています。

各部活動の報告・反省

《 行財政部 》

会津若松市立松長小学校 星 尚志
「教育行政に関する調査」の継続によって、年度当初からのSSSの任用が実現しました。その後、各学校の実態をまとめ、県教育委員会をはじめ関係各所に対する要望活動等の資料として活用させていただきました。心から感謝申し上げます。

現在、定年引き上げに係る情報が示されましたが、再任用の名簿登載通知の前に再募集という異例の状況に直面しています。

行財政部では、現在取りまとめている「教職員人事の反省」、並びに新年度の「教育行政に関する調査」によって、学校現場の置かれた状況を正確に把握し、県教育委員会と良好な関係を築きながら、関係各所への要望活動を続けて参ります。その折りのエビデンスとなる大切な資料ですので、今後ともよろしく願います。

《 研究部 》

会津若松市立城西小学校 横山 譲治
令和4・5年度の研究の振り返りです。北会津支会は、9校ずつ3班に別れ、第1・3・10分科会のテーマを担当し研究を進めています。感染症の波が寄せては返す中、幸い今年度は8月の支会発表会を含め対面の協議会が全て実施できました。各班運営責任者の校長先生を軸に、研究活動を推進いただきありがとうございました。

次年度は、いよいよ県小学校長会研究協議会 会津大会が開催されます。北会津支会の一人一人にとっても、大会に集う皆さんにとっても、学校経営の質的向上につながる実践情報の共有が、研究活動の眼目と考えます。数々の困難を解決し大会が成功するよう、知恵を集め皆で取り組んで参りましょう。

《 生徒指導部 》

会津若松市立神指小学校 高橋 由江
令和4年度も3つの生徒指導に関する調査へご協力頂き、ありがとうございました。

近年、自然災害や感染症等に係る環境の変化も相まって、ネット・SNS利用に関するトラブルが年々増加傾向にあります。今年度は、フィルタリング機能の有無について、「わからない」の回答項目を追加しての調査でしたが、「ある」との回答を上回るものでした。ネットやSNSの長時間利用、ネット依存傾向に陥る児童の存在、ネット等を通してのトラブルへの対応が喫緊の課題としてあげられます。

情報モラル教育を一層充実させ、家庭や関係機関と連携・協力を深めることで、ネット等でのトラブルの未然防止、早期発見に努めていくことが今後ますます重要になってくると考えます。

《 広報部 》

会津若松市立城南小学校 大塚 進一
会員の皆様にご執筆いただきながら、広報「北会津」154号、155号、156号と発行することができましたこと、厚く御礼申し上げます。

広報部としましては、154号の編集を磐梯二小近野先生に、155号の編集を永和小笠原先生に、156号の編集を一箕小半谷先生にお願いし、紙面構成をまとめていただきました。また、千里小高久先生、河学前期飯塚先生には、ていねいに校正をしていただきました。ご協力をいただいた部員の先生方にも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さらに、今年度より経費節約及び負担軽減の観点から、PDF原稿での発行とし、印刷については各学校にお任せすることになりました。ご負担をおかけしました。本当にありがとうございました。